

思春期ピアカウンセラーによる性教育を実施するうえで ネットワーク形成の課題

中島 節子・松本 清美^{*1}・中澤 文子^{*2}

* 1 長野県精神保健福祉センター
* 2 長野県こども・家庭課

1. はじめに

思春期の若者の性・生の健康問題として、自尊感情の低下や10代の妊娠、人工妊娠中絶、性感染症の罹患率の増加等が顕在化している。¹⁾ それらの解決に向け、若者の行動変容を促すためには従来の指導型の健康教育ではなく、同世代の仲間が行うピアカウンセリングやピアエデュケーションの手法が有効であるとされている。²⁾³⁾ このことから、長野県内では、平成15年度から思春期ピアカウンセラー（以下、ピアカウンセラーという）がピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動を行っている。今回、思春期ピアカウンセラー養成講座及び松本地域におけるピアカウンセラーの活動状況と効果及び課題について報告する。

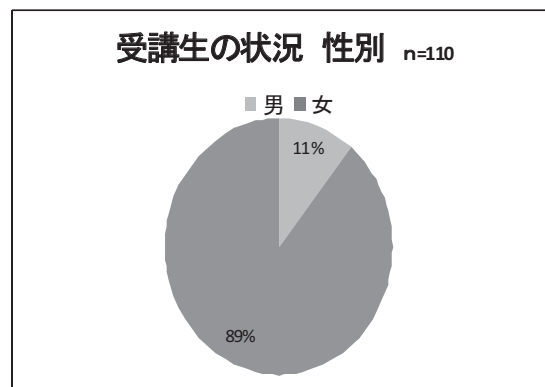
2. 実施

（1）思春期ピアカウンセラー養成講座の開催

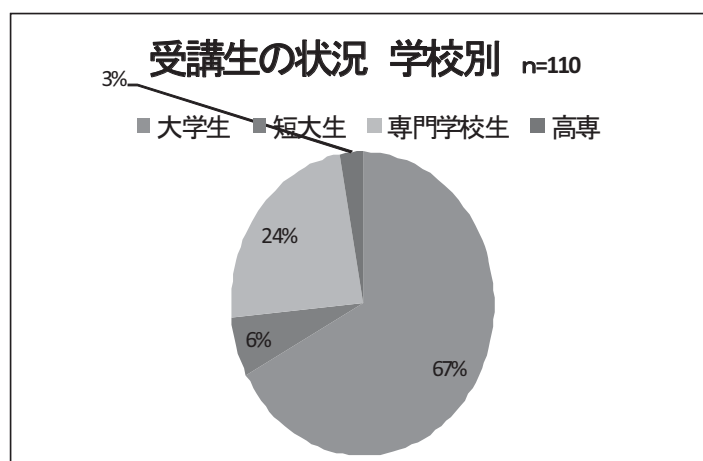
長野県では、平成15年度から思春期ピアカウンセラー養成講座を開催している。⁴⁾ 講座は18歳から22歳の若者で性を正しく学び仲間に伝えたい、ボランティア活動をしていく意欲があり、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会のプログラム⁵⁾ に基づいた4日間のベシック講座を受講することを条件としている。平成19年度、20年度、松本地域では、養成講座が開催されなかったため、受講希望者は他地域に出向いて受講した。21年度松本で開催するにあたり、松本保健福祉事務所の保健師と管内の大学、短期大学、専門学校に勧誘を兼ねてPRに回った。各学校の反応からは、養成講座の受講を勧めるよりより在学生に性教育を行って欲しいという要望が強かった。次年度に向けて、実際に性教育を行い、ピアカウンセラー活動のPRを含め仲間を募ることができる場を設けることが課題となった。

①受講生の状況

2年間（平成20年度、21年度）で、北信（長野市）で2回、南信（長野県看護大学）で2回、中信（松本大学）で1回養成講座を開催した際の受講生の状況について分析する。



受講数は110名で、男性11%と圧倒的に女性が多かった。学校別では大学生が67%と半数以上を占めている。大学、専門学校では、医療系の学生が54名とほぼ半数を占めている。他は、心理、保育、農学、教育など様々な専攻を有した学生が受講している。

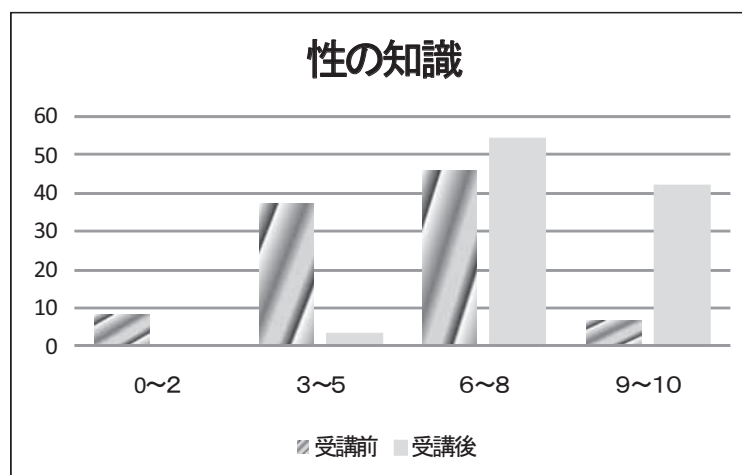
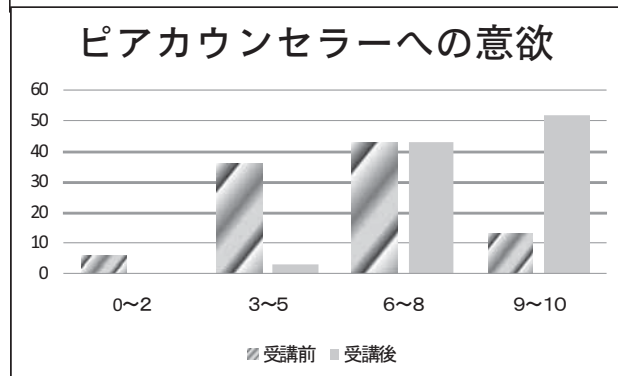
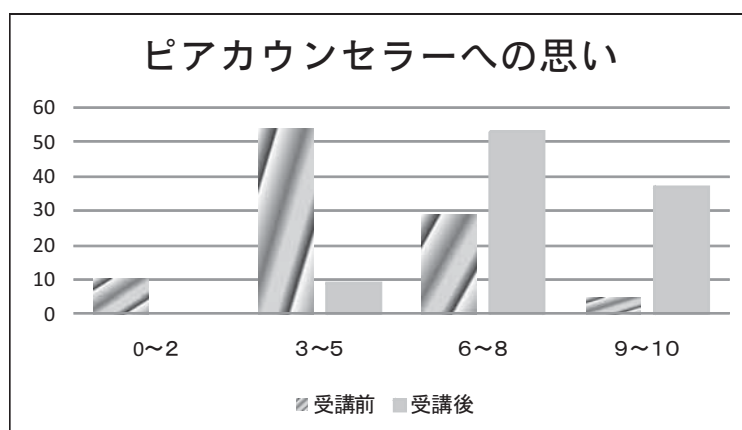


②受講の結果

養成講座受講後の学生の受講前後の「思い」「気持ち」「知識」の変化

10段階で示す。(10：高い⇒1：低い)

平成20年度、21年度受講生98名



「ピアカウンセラーへの思い」は、受講前は平均値が 4.9 ± 2.1 、受講後が 7.8 ± 1.7 とピアへの思いは高くなっている。

「ピアカウンセラーへの意欲」は、受講前が 5.9 ± 2.2 、受講後が 8.5 ± 1.4 とピア活動に対する意欲は高くなっている。

「性の知識」については、受講前が 5.6 ± 2.0 、受講後が 8.2 ± 1.2 と性の知識は高くなっている。

4日間継続して受講することは学生たちにとってハードであるが受講した学生は変化している。「4日前の自分とは全く別です。」「充実した4日間でした」と受講前は4日間の受講に抵抗があった学生も終了後の達成感が得られている。

アンケートの自由記述の中にも、「自分自身を見つめ、自分を発見し、自分自身を好きになっている。学んだことを伝えたい。自分にもできることがある。」などの記述にも伺えるように、自己肯定感が芽生えている。また、「性に対しても恥ずかしいという認識から大

切なこと」「性に関する話が仲間と真剣にできた」などと変化している。

以上のことからピアカウンセラー養成の目的は達成されている。

(2) 松本地域でのピアカウンセリング活動

①ピアエデュケーションの内容

学生アンケートより

対象：ピアカウンセラーが性教育にかかわった大学生・専門学校生

a 性に関して高校で話を聞いた有無 表1

ある	ない	合計
299	32	331

b 性教育を受けたことが「ある」と答えた人で、話の中で印象に残っていること

※自由記述を分類 n=331 表2

内容	合計
性感染症	166
避妊の大切さ	120
望まない妊娠の悲しさ	93
出産	47
責任ある行動	70
その他	10

学校における性教育は、各学校の全教科を通じて実施されるため、学校としての指導体制が整えられていなければならない。教育課程では、学習指導要領に基づいて実施していくことが必要である。高校生に対する性教育の受け止め方は、「非常に役に立つ、役に立つ」は約53%で肯定的に受け止められている。⁶⁾ 大学生が

性に関する知りたい内容は性行為付随側面である「性感染症の知識」5割弱があげているが、性的関心が高まるとともに身近な問題として不安が高まるからだと推測される。⁷⁾⁸⁾ また、中学や高校で学習率の少ない性行為に付随する具体的な情報や人生の中での性の意味や愛についておよび他者理解の方法などの心理的側面のニーズが高くなっていることが窺える。このことは、青年期の最大の発達課題である自己同一性の確立に向けた安定した女性性や男性性の確率、対人関係の安定化につながる健全な志向が成されていると考えられる。

高校を卒業した人たちが、高校でうけた性教育の内容で印象に残っていることを自由記載したものをまとめてみると表2より性感染症が多い。実際も92.8%の高校で性感染症を性教育の内容にあげている。⁹⁾

②ピアエデュケーションの実施

- ・ 専門学校のエデュケーション 性教育の一部分をピアカウンセラーが担当する。
平成22年度 ※長野県保健所等の保健師のコーディネイトのもと実施する。
- ・ 大学のエデュケーション 性教育の一部分をピアが担当する。
大学1年生に平成19年度、21年度実施
※20年度はピアカウンセラーとの時間調整できず教員による性教育を実施する。
- ・ 諏訪地区のピア活動の応援 専門学校3ヶ所 平成21年度

大学生、専門学校生にピアエデュケーションを実施（ライフライン、コンドームネゴシエーション、コンドームの使い方）して、受講生からの感想は、「責任を持つことが大切」「貴重な体験をした。」「中学や高校でも話は聞いたが、ここまで深く聞けたり、体験することはなかった」「コンドームの正しい使い方を改めて聞いて参考になった」など肯定的に受け止められた感想だった。ピアについては、「同世代の人の声は入りやすい」「年の近い人が話をしてくれ、積極的に聞くことがで

きた」とピアエデュケーションの目的も伝わっている。

大学生、専門学校生のピアエデュケーションを受けた後の感想（自由記載から） n=245

	合計（人）
自分や相手を大切に	43
責任ある行動をとる	22
命の大切さ	42
性感染症	21
妊娠・出産・避妊	65
その他講義の方法など	66

S市の中学校での実施（H20年3月）については、学校で養護教諭が性教育を実施したうえで、基礎的な知識などは習得した生徒にピアエデュケーションを組み込んでくれた。

内容は、ライフラインから性を含めてこれからどう生きるか考える。男と女の関係性をロールプレイから考え、シェリングを実施した。中学校からは、「グループで話し合う場面があり有効であった。生徒の反応はとてもよく、年代の近い若者と性を学ぶ意義は大きかった。」とのご意見をいただいた。実際の生徒から「性教育は体のことだけでなく人間関係が大切だと思う」「性に対して今までよりも向き合えるようになった」などの感想も寄せられている。平成20年度は依頼を受けたが、調整がうまくいかず未実施となる。

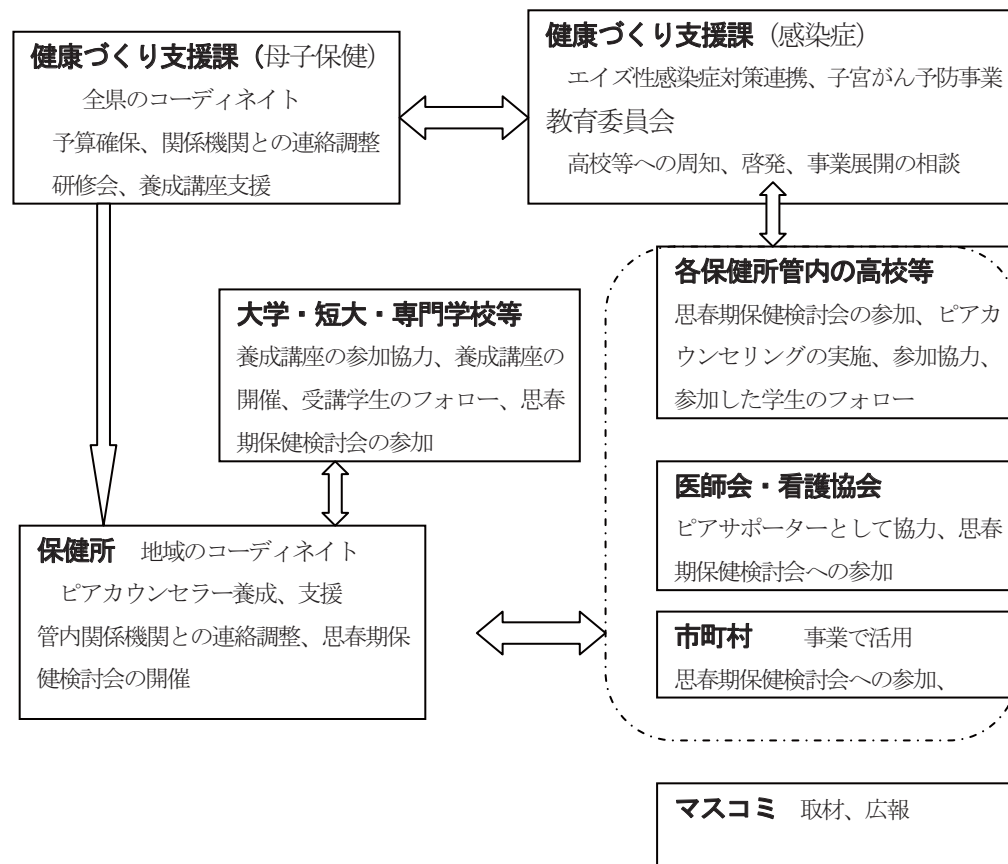
3. 考察

（1）ピアカウンセラー活動の課題と今後について

- ① ピアカンセリング実施にあたって日程的な問題として、ピアエデュケーションの要請があるのは、高校、中学校などからで平日の昼間授業の時間帯が多いため、ピアカウンセラーの学生も授業等があり、ボランティアの活動としては対応が難しい。医療系の学生は実習が始まると平日の対応は難しい。
- ② ピアカンセリングの準備、当日の人数確保などを実施するまでの難しさがある。
 ※他県では、看護協会、NPO などさまざまな母体を活用している。
 開設場所、電話など経費の問題があり難しい。
 ピアカンセリング実施の際に、ピアカウンセラーのみで対応できない場合専門家の教員や保健師などのピアサポーターが必要である。
 対応するピアカウンセラーの人数の確保（長野県は北から南まで点在しているため1箇所で行う難しさがある。）
- ③ 養成講座を受講した後もピアの学生たちの研鑽の場やエデュケーションの準備をする場が必要である。現在県下4カ所において、定例的に学習会、自主活動を実施しており、ピアカウンセラー養成指導者やピアサポーターが支援している。
 ピアカウンセラーの自主活動としてどこまで行うか。移動に交通費、教材の材料費など、依頼元から出してもらうのは難しい。ピアカウンセラーがパワーレスになったとき寄り添う人が必要。ピアカウンセラー間のトラブルなど調整する人が必要。
- ④ ピアカウンセラーの活動が周知されていない。活動内容がわからないと依頼できないという課題がある。

（2）ネットワーク形成

思春期ピアカウンセラーが活動していくために、地域や社会でサポートが必要である。

平成18年度思春期ピアカウンセラー・システムづくり事業体系図¹⁰⁾

今回、中信地区でも、松本保健所でコーディネイト役を行い、性教育の出前講座にピアカウンセラーが参加することでPR効果はあった。1回実施することで次年度へ繋がっている。ピアカウンセラーは学生の間の活動に限られている。活動を継続していくためには、次世代の後継者を養成し引き継いでいかねばならない。県のシステムは体系化されている。北信、南信（諏訪）地区では保健師がコーディネイト役として活躍している。全県で同様のシステムが稼働し、思春期ピアカウンセラーが活動し、思春期の子どもたちのサポートができることに期待したい。

4. まとめ

思春期ピアカウンセラーの活動に関し、様々な課題が残されているが、ピアエデュケーションは有効な健康教育手法である。仲間とのコミュニケーションを深め、ディスカッションを行っていく中で若者の意思決定や問題解決能力は高まっていく。情報が氾濫している時代だからこそ、何がいいのか、どうするか惑わされずに選択していくことが重要である。

「人は機会があれば、誰でも自分の問題を解決する力を持っている」というピアカウンセリングの前提のもと自分らしさを発見していった欲しい。

そのために、思春期ピアカウンセラー養成指導者あるいはピアサポーターが、ピアカウンセラーに寄り添い、関係者や関係機関の理解と協力を得るためのコーディネイトを行うとともに、地域のピアサポーターを増やすための活動が不可欠と考える。21年度から松本保健所と松本大学と連携し思春期ピアカウンセラー養成講座及びピアカウンセラーの活動支援を開始したことから、連携を強化し他の学生達も引き込みながら活動していきたい。

謝辞

本研究は松本大学「地域共同研究助成費」および日本私学学校振興・共済事業団「私立大学等経営費補助金特別補助対象事業・知の拠点としての地域貢献支援メニュー群・地域共同研究支援」より補助金をいただいていたことを記すと共に、感謝申し上げます。

文献

- 1) 日本性教育協会編 「若者の性」白書―第6回 青少年の性行動全国調査報告―，小学館 2007年
- 2) ピアカウンセラー養成者マニュアル&ピアカウンセラー養成マニュアル 平成16年 ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究班
主任研究員 高村寿子
- 3) 前田ひとみ，高村寿子．高校生を対象とした大学生による思春期ピアカウンセリングの評価（Ⅰ）南九州看護研究誌 Vol. 5 No. 1（2007）
- 4) 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル―ピアカウンセラー ピアカウンセラー養成者・コーディネータ版 高村寿子編著 小学館
- 5) 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル―ピアカウンセラー（学生）版
高村寿子 小学館
- 6) 日本性教育協会編 すぐ授業に使える性教育実践資料集 高等学校版 小学館 2008年
- 7) 大塚さとみ、栗原 淳．性教育におけるピアエデュケーションの短期的効果．学校保健研究 2006；48；32-45
- 8) 忠津佐和代，梶原京子．大学生の性に関する認識の実態とピアカウンセリングへの期待．川崎医療福祉学会誌 2008 Vol. 17 No. 2 313-331
- 9) 日本性教育協会編 「若者の性」白書―第6回 青少年の性行動全国調査報告―，小学館 2007年 147-154
- 10) 長野県衛生部健康づくり支援課「思春期ピアカウンセラー・システムづくり事業報告書」平成19年3月